

静岡県ことばと心を育む会と静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会

静岡県ことばと心を育む会 会長 吉岡 正

静岡県ことばと心を育む会は、県内のことばの教室に通う子どもの保護者を中心として生まれた親の会で、子どものことばや心の発達を育む教育・保育・福祉の促進のため保護者同士の親睦や共通課題の研究、検討・解決のための活動を行う会として、昭和38年に富士市に誕生し「いつでもどこに住んでいても、必要に応じて指導・治療・相談が受けられるように」という願いのもと県や市、町にことばの教室、きこえの教室の設置、整備を働きかけてきました。

その甲斐あって、昭和40年～50年代に県下各地にことばの教室、きこえの教室が開設され、親も指導者も共に協力して県下の指導教室の設置、整備に努め、昭和54年には県より事業補助金の交付を受け、ことばの教室に通う児童の親は全て県親の会に入会し、ことばの教室担当教員が中心となり、事業を行う形態になっていました。

平成に入り、県下の教室の設置、整備進んだのと親の就労、「通級による指導」の制度化等親の意識、担当者の思い等から各教室が親の会からの脱会が始まり、県内に発達通級教室が開設され担当者の多様、親の会への負担等で、浜松市の教室の親の会と沼津市第二小親の会と再興した静岡市親の会だけになってしまいました。県親の会加盟教室・会員の減少の中、県から受けている補助金事業「言語障害児指導相談事業」を守り、親の会の活動、担当者の補助金、研修を守ろうと私は、会長、事務局長を長く兼任し、協力してくれる先生、役員と懸命に県親の会を続けてきました。継続は力なりで必ず救世主が現れ救われ、幾多の改革を行い、お蔭で全国一の数と質の活動を県下で展開し、活動が評価され知事褒賞が授与され、昨年の夏の全国親の会大会では静岡大学の海野智子先生の力を借り「親が主体となって創る親の会活動」を発表し静岡の親の会の活動を全国に発信できました。近年は県親の会も東部、中部、西部の役員が充実し、頑張っており教室の担当者に負担をかけない、協力をいただける会を心がけており、特総研の牧野泰美先生が言った「親の会の活動は親も担当者も楽しくなければ、楽しまなければ続かないよ。」を心がけるようにしています。

県親の会を50数年に渡って支え続けてくれた、浜松市の親の会と担当者、沼津市第二小学校の親の会と担当者には深く感謝致しており、浜松市の先生が「親の会と歩んだ50数年は私達の宝だ。」と言ってくれたことにジンとききました。

私たちは担当者が教えやすい教室、子ども達が学びやすい教室に努力致し、「子どもを真ん中に親と先生が三人四脚で」を願っており、県からの補助金「言語障害児指導相談事業」が途絶えることのないよう、担当者が質の高い研修が受けられるよう、幼児教室に支援が続くよう、親の会の充実した活動が続けられるよう、令和の時代は真に静岡県ことばと心を育む会と静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会が支え合い、協力し合い、信頼し合う会になることを切に願っております。